

# 第1回FUYOUカップオープン ドッジボール大会 大会要項

1. 日時 令和4年3月21日(月・祝) 9:00~17:00  
開場 8:15 受付 8:15~8:30  
監督会議 8:45~  
開会式 9:00 試合開始 9:20  
役員準備(会場設営) 7:30  
\*スケジュールを変更する場合がありますのでご注意ください  
※駐車場の開門は8時を予定しています。駐車場への入場待ちは渋滞の原因となりますので控えていただくようご協力をお願いします。
2. 会場 アダストリアみとアリーナ  
茨城県水戸市緑町2-3-10 TEL029-303-6335
3. 主催 株式会社FUYOU 水戸市ドッジボール協会
4. 後援 茨城県ドッジボール協会 水戸市教育委員会 水戸市スポーツ協会  
(株)茨城新聞社
5. 協賛 お弁当のひろうら
6. 競技種目
  - (1) 中学生の部
    - ・男子: 中学1年生~高校1年生、女子: 中学1年生~高校3年生構成されたチーム
    - ・女子が1名以上登録されていること
    - ・コート内に1名以上女子がいること
    - ・高校生はコート内には2名以内とする
    - ・プレイヤーは8名、登録は15名まで
  - (2) シニアの部
    - ・中学1年生以上で構成されたチーム
    - ・男子、女子、混合を問わない
    - ・プレイヤーは8名、登録は15名まで**※中学生の部とシニアの部はダブルエントリー可**
7. 参加費  
中学生の部・シニアの部 8000円  
**※参加料については、大会当日受付にてお支払いください。**  
※本大会は帯同審判不在による負担金はありませんが、審判資格のある方は、プレイヤーと審判の兼務も可能です。審判のご協力をお願いします。
8. 競技方法
  - (1) 試合は予選リーグ戦を経て、トーナメント方式にて優勝チームを決定致します。
  - (2) 予選リーグの組み合わせは、大会事務局の責任抽選にて決定し、水戸市ドッジボール協会HPにて発表します。
9. 競技規則
  - (1) ルールは一般財団法人日本ドッジボール協会公式ルール及び2021年度版シニアカテゴリーレギュレーションに則って行います。
  - (2) 予選リーグ、決勝トーナメントは5分1セットマッチ。準決勝、決勝は5分3セットマ

- タッチ。(2セット先取)なおスケジュールによっては、準決勝、決勝1セットマッチ等、変更する場合があります。試合時間の計測は全てランニングタイム制とします。
- (3) 予選リーグは勝点制を採用して順位を決定し、全チームが決勝トーナメントに進出します。(勝ちを2点・引き分けを1点・負けを0点)
  - (4) 決勝トーナメントでは試合終了または各セットで勝敗を決めます。  
試合終了またはセット終了時に内野人数が同数の場合には、そのままVポイントゲームを行います。(セット終了時の状態で試合を再開し、最初にアウトを取ったチームの勝ち)
  - (5) ワンタッチの適用はありません。
  - (6) 中学生の部についてはまた、必ずコート内に1名以上の女子プレイヤーを参加させること。高校1年生の参加を認めるが、コート内には1チームにつき2名までしかプレイできない。
  - (7) コートサイズは内野11M 外野3Mとする。
  - (8) 審判への抗議・アピールは一切認めません。
  - (9) 選手への厳しい指導(体罰・罵声等)があった場合は、大会本部より処分を下すこととなります。
  - (10) 本大会は、茨城県ドッジボール協会策定「新型コロナウイルス感染症拡大予防マニュアル」に基づき実施しますので、係員等の指示に従ってご参加いただくとともに、ご参加のみなさん1人ひとりがマニュアルに沿って行動いただけますようお願いいたします。\*各チームより感染症拡大防止の観点から、各チーム合計28名迄の入場及とさせていただきますので、予めご了承ください。なお、受付時に入場者の確認の為、バイタルチェック表のご提出のご協力を宜しくお願いします。  
\*今後の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大状況等に変動があった場合には関係各諸官庁の指示及び要請により延期又は中止なる場合もありますので、重ねてご了承頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 10. 申込方法

令和4年3月6日(日)必着にて参加申込書を大会事務局宛てFAXで送付して下さい。

#### 11. 表彰 優勝チーム、及び上位入賞チームを表彰する。

#### 12. その他

- (1) 中学生については必ず責任者が引率してください。
- (2) 参加選手には万一の事故に備え「スポーツ安全保険」への加入を義務付けます。(引率者も加入できます)
- (3) 大会参加にあたっては、選手の健康管理に十分留意してください。  
競技中に選手が負傷した場合、会場において応急処置をいたしますが、主催者はその後の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。  
また、会場までの往復の事故についても責任を負いかねますのでご了承ください。車上荒らし・置き引き等にもご注意ください。
- (4) 各チームともプラカードをご用意下さい。

#### 13. 本大会に関するお問い合わせ先

《大会事務局》

第1回FUYOUカップオープンドッジボール大会 係

〒310-0031 茨城県水戸市大工町1-2-22 茨城県ドッジボール協会

TEL 029-302-4028

FAX 029-302-4029 (FAX専用・24時間受付OKです)

Email: info@idba.jp

✉tatsuo9638@yahoo.co.jp 事務局長 黒澤 ☎09026573785

## 2021 年度版シニアカテゴリーレギュレーション

### 【適用】

本レギュレーションは全日本女子総合選手権・全日本選手権(以下、上位大会)とシニアチャンピオンシップ(以下、予選大会)において適用されるものとする。但し、上記大会以外の大会においても、大会主催者が本レギュレーションを採用し、競技運営を行うことができる。

### 【クラス】

シニアカテゴリーを下記のようにクラス分けする。

#### 1、ファイターの部

中学生以上の男女で構成される競技性を重視したクラス。男女比の制限は行わない。

#### 2、女子の部

中学生以上の女子で構成される競技性を重視したクラス。

#### 3、ふれあいの部・エンジョイの部(シニアチャンピオンシップのみ)

中学生以上の男女で構成されるレクリエーションを重視したクラス。

各主催者により出場要件が異なる。

※ふれあいの部・エンジョイの部については、以下のレギュレーションを主催者が変更する場合があります。各大会の要項を確認してください。

### 【チーム編成・スターティングラインナップ】

チームは 20 名までのプレイヤーと 3 名までのチーム役員で構成される。チーム役員が兼任プレイヤーとなる場合は、20 名の登録プレイヤーの中に含まなくてはならない。

また、監督が兼任プレイヤーとして試合に出場する場合、プレイヤーズベンチには必ず 1 名以上の成人が監督代行者としていなければならない。主審・コートマスターが指示をした場合を除き、いかなる理由においてもプレイヤーズベンチに監督代行者がいなくなった時点で不完全の対象となる。対応は公式ルール&審判テキストブック 126 頁「11.不完全となった場合」の「2)成人がベンチにいなくなった場合」に記載の通りとするが、②の「プレイヤーの人数を確認」を「必要に応じてプレイヤーズベンチにいる者の年齢を確認」と置き換えて対応する。

※一方のチームが不完全となった時点で、その相手チームを不戦勝とする。この場合における試合の勝敗は、公式ルール「第 705 条 ③」に準拠する。(◆但し、各セットの内野人数は 7 対 0 とする。)

なお、監督が選手として出場している際、選手の安全確認と記録用紙への署名は全て監督代行者が責任を持って行う。

試合開始時には、コート上には 8 名のプレイヤーが出場するが、7 名の場合でも試合は成立とする。試合開始時の出場人数が 6 名以下となった時点で不完全の適用とする。

### 【選手の競技者登録について】

大会に出場するチームのエントリー選手全員が大会当日までに登録競技者として承認されていなければならない。(但し、オープンエントリーに関しては当該予

選大会の要項に準拠する)

選手番号は当日着用するユニフォームの番号に合わせる。

大会当日は競技者登録がされている個人会員証(以下、会員証)の提示を求める場合がある。紛失した場合や大会に会員証を忘れた場合など、大会会場で競技者登録を行っていることが証明できない場合は、大会に出場できない可能性があるので注意すること。

#### 【チーム役員の指導者登録について】

大会に出場するチームの登録チーム役員について、上位大会進出後の変更は可能とするが、予選大会でエントリーした人数から増やすことはできない。

重要・指導者資格について

2019年度以降、シニアカテゴリーにおいても公認指導者資格所有者1名のベンチ入りが必須となっています。※プレイヤーとの兼任は可能です。

#### 【予選大会から上位大会までの選手の変更について】

上位大会における、エントリー選手の予選大会からの変更については、登録人数を20名まで認めていることから、いかなる場合も一切認めない。

チームは予選大会エントリー時に上位大会を見据えた登録を行う必要がある。

エントリー選手を変更せざるを得ない場合は、既に勝ち得た出場権を辞退し、別会場の予選大会で規定の成績を収めなければならない。

#### 【上位大会への上場辞退】

予選大会において上位大会への上場権を獲得したチームが、やむを得ない理由で上位大会への上場を辞退する場合は、速やかに出場予選大会の主催者に連絡をしなければならない。JDBAからの確認があるまで出場辞退を申し出ない場合、エントリーチームならびにエントリー全選手は、次年度の上位大会への上場権を得られないものとする。

#### 【抗議・アピール】

いかなる抗議・アピールも罰則の対象とする。原則的に反射的な動作はこれに含まれないが、反射的な動作であっても悪質な言動と審判員が判断したものについては罰則の対象とする。

また、試合終了後の確認は認められているものの、確認ではなく一方的な意見・批判である場合、コートマスターからの説明を受けても更に説明を求め続けたりする行為についても罰則の対象とする。

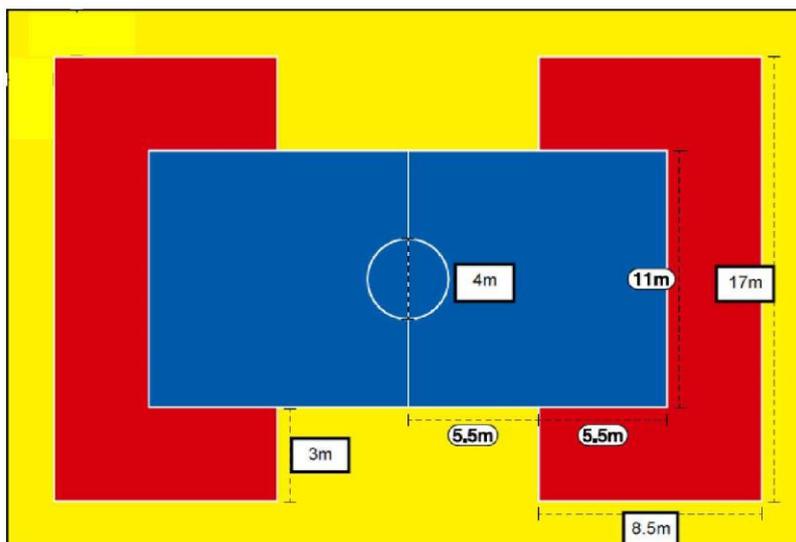
#### 【コートサイズ】

コートサイズは全てのクラスにおいて、次の図の通りとする。

女子の部においては、小学生のコートサイズで実施しても構わない。

ファイターの部においても会場規模によりコートサイズ確保が困難な場合は、安全確保等を勘案し、内野・外野またはその両方を0.5m単位で縮小することができる。但し、小学生のコートサイズよりも小さいコートで試合を行うことは認めない。コートサイズに変更がある場合は、大会要項や監督会議で事前に説明を行う。

(コート図)



### 【ボール】

JDBA 公認球(MG-JDB、D3C5000)を使用する。但し、空気圧に関してはメーカー設定の下限値を大会開催前に調整する。

### 【試合形式】

全ての試合をランニングタイム制で行う。

予選はリーグ戦またはリンク戦を行い、上位チームが決勝トーナメントに進出する。

リーグ戦またはリンク戦の順位決定方法は、各主催者が決定する。

決勝トーナメントにおいて試合終了時に内野人数が同数の場合は、**ヴィクトリーポイント(Vポイント・VP)**ゲームで勝敗を決定する。

決勝トーナメントのセット数については、各主催者が決定する。

### 【外野のワンタッチ】

全てのクラスにおいて外野のワンタッチルールを採用しない。外野のワンタッチが存在しないことから、外野プレイヤーが意図的にボールを弾く行為は例外的な行為とは認められず、イリーガル・スローの対象とする。

### 【ヘッドアタック】

ドッジボールが危険な競技と誤解をされないよう、攻撃側、守備側共に最限の配慮を行うこと。

特にファイターの部、女子の部においては、相手プレイヤーが投球したノーバウンドボールに対し、キャッチング(捕球行為)またはドッジング(ボールをかわす行為)の意思がない状態で、ヘッドアタックを誘発させるために頭を突き出す行為や、意図的に頭部をボールの軌道に移動させる行為と審判員が判断した場合、イリーガル・キャッチ、イリーガル・スローの対象としてアウトとするので注意すること。(状況に応じ、罰則の対象となる場合もある)また、攻撃側についても至近距離などの状況下にて頭部への投球に至った場合は、危険行為(安全配慮義務違反)として罰則の対象とする。

### 【正当なボール保持の妨害行為】

相手コート内にあるボールに対して(空中にあるか、コートに接触している状態かは問わない)、故意に相手コートへ入りボールに関与する行為、または相手プレイヤーがボールを保持しようとしているところを故意に相手コートに入り妨害する行為を行ってはならない。この場合、危険行為として罰則の対象とする。但し、自コートでボールを保持し、勢い余って相手コートに入ってしまった場合は除く(オーバーラインの適用)。

### 【本レギュレーションにおける罰則について】

本レギュレーションにおける罰則について、怪我のリスク、安全確保やマナーおよびフェアプレイの観点から、厳しく罰則を適用するものとする。

- ・危険行為(安全配慮義務違反を含む)、重大なマナー違反があったと認められる場合は『警告』
- ・暴力行為、侮辱的言動、著しくスポーツマンシップに反する行為があったと認められる場合は『退場』
  - 同一セット中、2回目の警告を受けた場合も退場となる。
  - 悪質な言動を続けることや、審判員がチームに対してプレイや言動の改善を求めたにもかかわらず指示に従わない場合は、その時点で『失格』
  - 失格となった場合、チームは以降のセットに出場できない。
  - 失格となった時点で、その相手チームを不戦勝とする。尚、不戦勝時における試合の勝敗は、公式ルール「第705条 ③」に準拠する。(◆但し、各セットの内野人数は7対0とする。)
  - 抗議・アピールについて、審判員が軽度と判断した場合は指導を行っても差し支えないが、同一試合中に同一チームの選手が再び同等の抗議・アピールを行った場合は、警告の対象とする。